

# 第1回福島市一般廃棄物新最終処分場整備専門家会議

日 時 平成25年10月1日(火)  
午後1時30分～午後3時20分  
会 場 市役所9階 907号室  
出席者 委 員 7人  
事務局 9人

## 【会議内容要旨】

1. 専門家会議設置要綱について
2. 委員長及び副委員長の選出について  
委員長 樋口良之 委 員 福島大学共生システム理工学類教授  
副委員長 梅村 順 委 員 日本大学工学部専任講師
3. 議 事
  - (1) 報告事項 廃棄物処理の現状と事業計画概要について
  - (2) 協議事項1 日程(案)について
  - (3) 協議事項2 候補地選定基準(案)について
  - (4) 協議事項3 情報公開(案)について

## 【質疑応答要旨】

1. 報告事項 廃棄物処理の現状と事業計画概要について
  - (1) 埋立処理した廃棄物の状況(表1-4より)  
〔委 員〕  
溶融スラグが埋立処理された理由について  
※溶融スラグとは、焼却灰等を1,300度以上の高温で溶融し冷却を行い、固化したもので、建設・土木資材として活用されている。  
〔事務局〕  
溶融スラグは、平成20年9月から稼働させ有効利用するため製品化し、道路等の路盤材料として出荷してきたが、震災以降、出荷できる状態ではない(放射能の影響)ことから、埋立処分場に一時保管しています。
  - (2) 残容量及び残年数対策  
〔委 員〕  
現在の排出量そのまま続くと、新最終処分場の供用開始に間に合わないのではないか。  
〔事務局〕  
排出抑制や再生利用の対策も必要ですが、不足する年数については所有している施設の延命化措置についても、同時に検討して対応する考え

であります。

## 2. 協議事項1 日程（案）について

### (1) 日程について

〔委員〕

選定を進めていく中で、いろいろな要素で時間を要するケースが出てくると思うが、現時点では想定出来ないため、評価に係る時間としては適当である。

## 3. 協議事項2 候補地選定基準（案）について

### (1) 一次評価について

#### ①水源への影響について

〔委員〕

産廃施設であれば、候補地の下流に水道水源がないことが普通に求められているのではないか。下流と言ってもどこまでを指すのか分からないため、もう少し詳しく説明した方が良いと思う。

〔事務局〕

水系や水源の考え方や下流域の考え方について、説明方法等の検討を行います。

#### ②農用地区域までの距離について

〔委員〕

実務的に農用地が、1 km の範囲内に無いというのは難しい。ここで言う農用地区域の定義を、しっかりしておいた方が良い。

〔事務局〕

現況が農地ということではなく、ある程度まとまった優良な農地を区域指定しているため、それを対象とする考えであります。

### (2) 二次評価について

#### ①地形勾配について

〔委員〕

土砂災害などに指定されている区域を予め除外するため、危険区域は除外される可能性は高くなるが、法令で指定されている区域は、保全対象物がある所だけ指定されているため、その他にも危険な場所はある。

専門業者が現地踏査をするのであれば、地形勾配だけでなく、もう少し踏み込んだ評価をお願いしたい。

〔事務局〕

地図上の調査や現地調査時も含め、地滑り地形（土石流）の評価は、調査を委託する専門業者と協議を行い、委員の皆様を検討いただく考えであります。

#### ②水源への影響（放流先の水路・河川の状況）について

〔委員〕

河川の種別で評価するのは意味がないと思う、希釈の問題であれば、大きい小さいは関係なく、現状の水量で評価すれば良いので、大きい川でも小さい川でもリスクは同じであると思う。

各県の産廃の立地基準に、放流先の河川の種別はあったのか。

〔事務局〕

調査した県の立地基準に、放流先の河川の種別は見あたらなかった。

〔委員〕

水質汚濁防止法でも、どれだけ希釈されるのかが大事であり、川の大きさではないので、種別で評価するより、水量で評価した方が良い。

当然、処理水の水質はその河川の放流基準を厳守するが、理解してもらえないのが現状であり、水量で説明して理解を得るしかない。

主な評価視点の河川の種別は、参考としてはどうか。

〔事務局〕

河川の現状、水量や断面、整備状況等を評価し、河川の種別は参考事項に変更します。

### (3) 最終総合評価について

#### ①現地調査について

〔委員〕

現地調査の内容が、記載されていない理由はなにか。

〔事務局〕

現地調査の内容については、現時点では固定化せず、今後において候補地が選定されていく中で、どのような調査が有効であるかを本会議で確認をいただきながら、進めさせていきたいと考えております。

### (4) その他

#### ①埋立必要容量と面積について

〔委員〕

埋立容量や面積が分からなければ、候補地選定が出来ないのではないかな。

〔事務局〕

候補地選定には、現在策定中である一般廃棄物ごみ処理基本計画と整合を図りながら推計し、必要規模・面積等を求めて、候補地選定に反映させる考えであります。

#### ②気象による評価について

〔委員〕

気象による評価がないのは、問題ではないかな。

雨は市内に限定すれば大きな差はないと思うため、設計に柔軟性を持たせれば良いが、風は考慮する必要があると思う。

〔事務局〕

候補地選定の中で、概略環境影響評価を行ったり、地元説明会の中で確認しながら進めていきたいと考えております。

## 4. 協議事項 3 情報公開（案）について

### (1) 情報公開について

〔委員〕

透明性も大事であると思うが、市民生活に必要不可欠な重要施設であり、同時に迷惑施設でもあるため、進め方に対する情報公開の方法は大事になってくる。

[事務局]

市民生活にとって、最終処分場の必要性は必須であるが、同時に安全性に関する情報も重要であります。このため、選定していく段階で、そこに至る経過や理由等も随時公開していくことがより、住民に理解をしていただくために重要であり、他の事例を見ても、後追いにならないように情報の公開を行って行かなければならないと考えております。

(2) 現地調査に関する対応について

[委員]

現地調査に協力できない、という候補地がある場合の対応について。

[事務局]

候補地の選定は、現地の調査なくして先に進めることはできないと考えられるため、対応について十分な検討を行っていきます。

(3) 情報の提供について

[委員]

市政だよりに載せる場合、紙面の制限や掲載回数についてどのように進めるか。

[事務局]

現在、処分場に限らず市民生活におけるごみの排出抑制や再生利用等ごみ全般について毎月、時節や必要に応じて掲載しているので、今後は、新最終処分場建設の情報量を増やして進めるよう考えております。

(4) 現処分場の現在の情報について

[委員]

現処分場の現在の状況について、情報の提供をしていますか。

[事務局]

震災後、処分場の残余量が少なくなっていること、減量化のためのリサイクルや分別への協力依頼について、市政だよりを活用しながら段階的に情報の発信に努めており、10月号で関連記事を掲載しておりますが、今後も継続して情報量を増やしていく考えであります。

(5) 住民の合意形成に係る情報の提供について

[委員]

迷惑施設であるため、地元の方との合意形成が非常に大事と思うが、専門家会議による候補地の選定以前に、地元との合意形成を得ることは難しいとも考えられる。技術的なものだけでなく、地元コンセンサスも選定評価の一つとしてもよいのではないか。

最終候補地選定は地元が絶対反対している場合は、候補地として選定することは殆ど不可能と考えられるが、選定の大きな要素として、地元の協力があるかどうかを重要と考えます。

[事務局]

最終候補地として選定される場合は、地元住民の考え方も整理しなければならない事も含め、住民への情報の提供と合意形成については、庁内においても情報を共有しながら進めたいと考えております。

以上が、第1回専門家会議の主な内容であります。

以 上